



さあ、フィールドに出よう!!

比較文化学類を志望されるみなさんへ

比較文化学類長の伊藤純郎です。

今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大により、オープンキャンパスは中止となりました。このため新たにオープンキャンパスに代わる学類HPを作成し、学類の教育課程、入試をはじめ、学生が作成したコース紹介動画（授業風景）や学生生活に関する情報をお知らせすることにしました。

写真は、2019年度私が担当した日本研究実験実習Ⅴで行った広島・呉巡検の時に、原爆ドーム前で撮影したものです。

この実習は、奥田博子『原爆の記憶ヒロシマ／ナガサキの思想』（慶応義塾大学出版会、2010年）をテキストに、原子爆弾の投下と被爆の人類史的意味を、軍都広島から平和都市ヒロシマの誕生を対象に、広島という場において批判的に検証する日本研究演習Ⅴ・Ⅵの総仕上げとして、11月下旬に2泊3日で実施したものです。

私の演習では、歴史の<現場>に自ら足を運び、自分の耳と手と頭を使って歴史を問い直すことを受講生に求め、演習で設定した自分自身の課題（テーマ）をフィールドにおいて検証することを行っています。

比較文化学類の特徴の一つに、こうしたフィールドワークの重視があります。フィールドに出て、自分の身体で感じたことや得た知識を、大学における教育に活かしてください。

みなさんの入学をお待ちしています。そして、一緒にフィールドに出ましょう。



比較文化学類長（人文社会系教授）
伊藤 純郎